

FLASH RELEASE

No. 12-114: TELEMATICS MARKET '03
Nov. 4, 2003
MCNET, INC.

- 1 -

2003年11月4日
株式会社 マクネット
東京都千代田区神田松永町10番地
代表取締役 中村 与志也

すでにICキタスという概念は広く認知されるようになったが、これまでICキタスを実現する物やサービスは携帯電話以外に見るべきものがなかった。しかし01年11月に始まったJR東日本の「Suica」や、02年から03年にかけての実施済み・実施中の各種実証実験、また04年から発行される非接触ICカードの運転免許証等、日本の産業界はICキタス社会の実現に向けて大きな一歩を踏み出している。

本調査資料はRFIDを取上げた。RFIDは、このICキタス社会を実現する技術の一つである。しかもその中核的な技術であり、今後の社会の有り様を大きく変える可能性を秘めている。飲食店等の小さな事業単位からサプライチェーンの生産、物流、小売の業際的な事業単位、そして生活環境までありとあらゆる分野がこのRFIDによって大きく変ろうとしている。

調査資料 「RFID SOLUTION MARKET '04」 結果速報

問題設定

- ISSUE 1** : RFIDのソリューションモデル モデル別の市場規模、その推移は？ サプライチェーン市場は？
- ISSUE 2** : 業界別のTag枚数、Hardwareの市場規模は？
- ISSUE 3** : 業界別のCard枚数、Hardwareの市場規模は？

調査方法

Target : 業界関係者インタビュー調査 : 208社・団体
Methodologies : IDIs (Individual Depth Interviews)
実施期間 : 2003年8月～10月

調査結果サマリー

- I. RFID Mkt. Overview** : 読取専用のパッシブ（電池なし）Tagは2010年に1円が可能になると判断し、10年までは成長前期、10年以降は本格成長期として位置付けた。RFID Systemのモデルは3モデル プライベートシステムモデル、共同システムモデル、サービス提供モデルとに分けられ、それらのモデルが次々と立ち上がってMkt.を形成する。
- II. RFID Tag Solution Mkt.** : 10年のMkt.サイズは1,789億円。Mkt.の中核は製造分野の自動車・B2BとB2Cを代表するFMCG。当初、生産・インフラ資産ソリューションがMkt.を牽引。その後Tag単価の低下で管理・戦略ソリューションが拡大。拡大が期待されるが、Mkt.のハードルも多く、本格普及の為には解決すべき課題も多い。
- III. RFID System Mkt.** : RFID + Hardware Mkt.は10年に865億円。10年のRFID Tagの単年発行枚数（出荷ベース）は47.6億枚、449億円で製造業がMkt.を牽引。Cardは09年に8,000万枚を突破し、430億円に達し、公共・認証と金融・決済分野がMkt.を牽引。但し、07年頃からはRFID Tagを搭載した携帯電話による決済/認証が普及するようになり、RFID Cardの発行枚数の成長力が弱まる。TagはFMCG分野が、Cardでは運転免許証（官需）とクレジットカード（民需）が大きな成長となる。

本リリースについての内容のお問合せは下記までお願いします。

MKTG. DEPT. 山科 : PHONE: 03-5294-4410

e-mail: yna-mcnet@amy.hi-ho.ne.jp

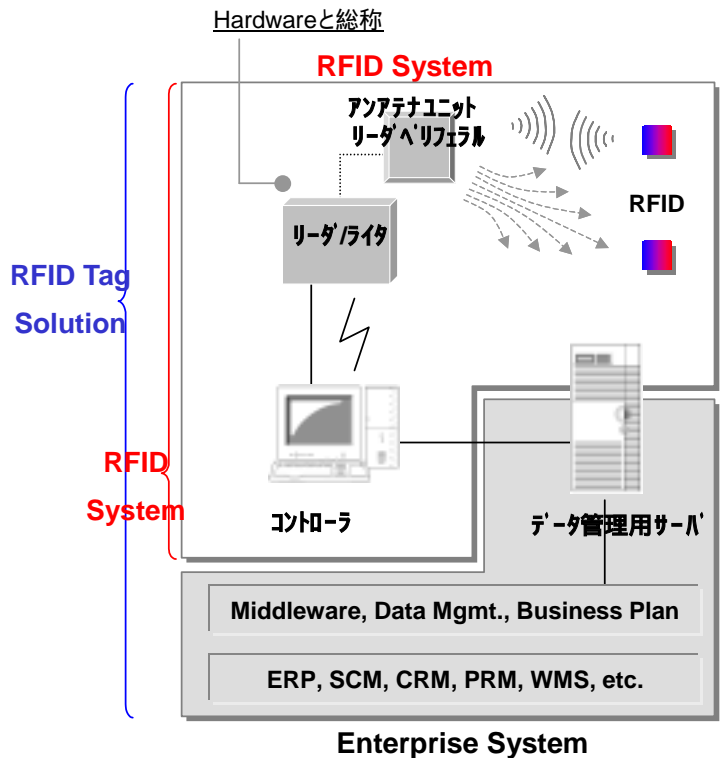
Market Overview

RFID (Radio Frequency Identification) は、システムを構成する一要素で、RFID システムは RFID とリーダ/ライタ、コントローラ等で構成される一種の構内/屋外無線システムである。

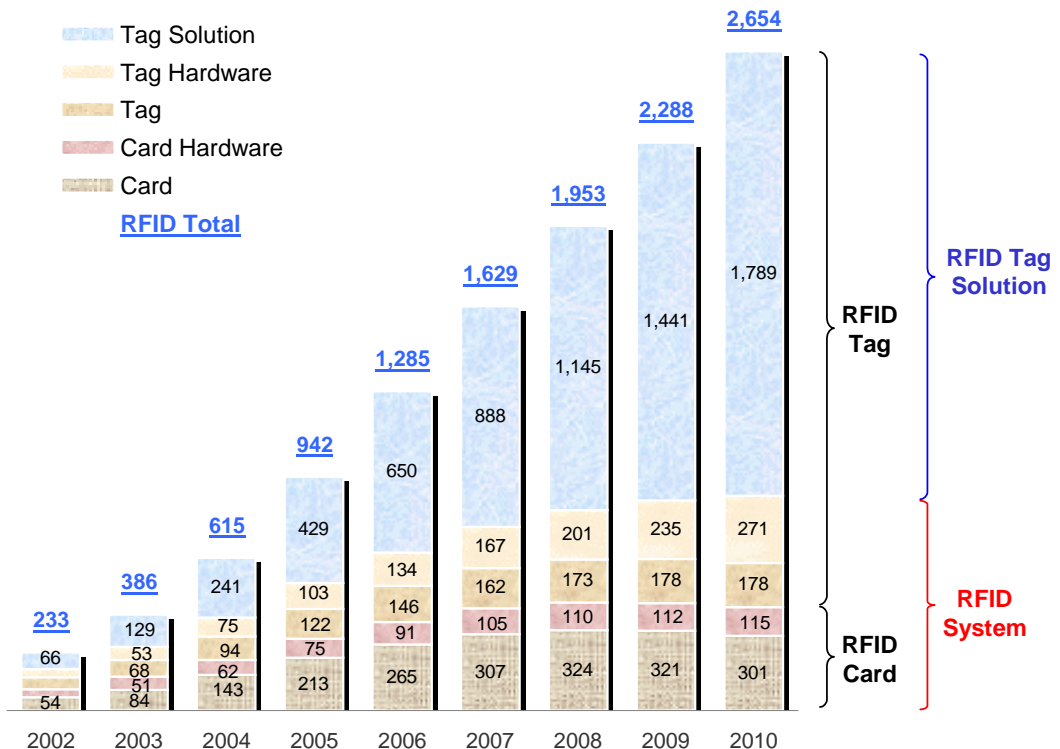
本来、システムには上記の 3 要素以外にデータ管理用のサーバが含まれるが、終端システムとしてこの 3 要素を対象とし、データ管理用サーバは SI 系ソリューションの対象とした。

ソリューションは構内系ソリューションと SI 系ソリューションに大別されるが、本資料では一括して扱った。

ソリューションとシステムの Mkt. は急速に拡大する。特に RFID Tag Solution は、製造工程管理等のプライベートシステムや、サプライチェーン等の共同システムの構築により極めて大きな Mkt. に成長する。



RFID Tag Solution & RFID System Market

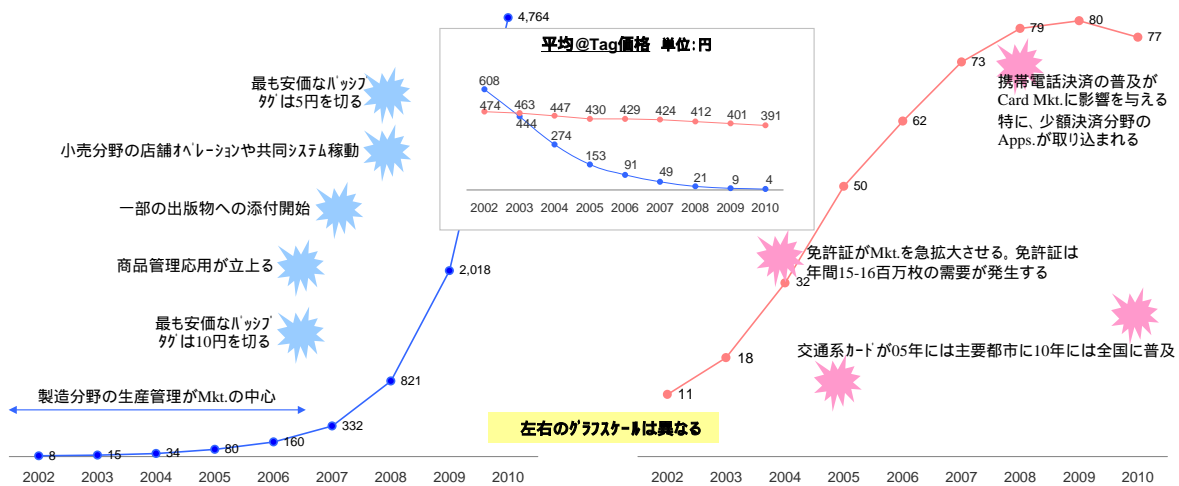


Supply Chain Market

RFID Tag の出荷枚数は、07-08 年以降急速に拡大し、10 年には 47.6 億枚に達する。これは Tag 単価の急速な低価格化と、流通を中心とした「Case」管理が立ち上がることによる。RFID Card は RFID Tag より Mkt. の立ち上がり早い、07-08 年頃からは携帯電話による決済に押され Mkt. は横ばいから若干の下降となる。

RFID Tag 出荷枚数 単位：百万枚

RFID Card 出荷枚数 単位：百万枚



RFID Tag の管理レベルと普及の阻害要因

RFID Tag が対象とする「物」は大きな単位から小さな単位まで 4 種類に分けられる。最も小さな単位は個別商品「Pkg. or Item」(個装)であるが、個装単位まで管理が進むには Tag 単価が「1 円未満」が望ましく、2010 年までは「Case」単位の管理が中心と推定される。

RFID Tag Target Level			
Container	Pallet	Case	Pkg. or Item
コンテナ: 大型 集合単位	パレット: 中・小 集合単位	ケース: 最小 輸送単位	パッケージ・アイテム e.g. 缶コーヒ
数億個	数百億個 小さな単位 管理対象数の増加	数千億個	数兆個
RFID Tag Volume			

全国一律に RFID Tag を添付した場合、「Case」単位の管理に必要な Tag 枚数は、数千億個と予想される。企業の業績や生産量管理は「Case」単位が多く、「Case」単位の管理が最も有力視できる。全企業が「Case」管理を実施すると莫大な Tag が必要となる。

普及の阻害要因

- RFID Tagコスト
- ノウハウ不足
- プライバシー
- 読取率
- 標準化
- その他

投資とリターン

RFID活用の投資のリターンは、12ヶ月以内が望まれており、長くとも18~24ヶ月以内が望ましい。現状ではRFIDの本格活用までにはコンサルティング、実証実験を経て調整の後本格稼働となり、その間に2~3年が費やされる場合も多く、リターンまでには時間を要している

以上のように大きなポテンシャルを有し、Mkt.の大きな拡大が期待される RFID Tag Mkt.であるが、上に示した読取率の向上や標準化等解決すべき課題も多い。